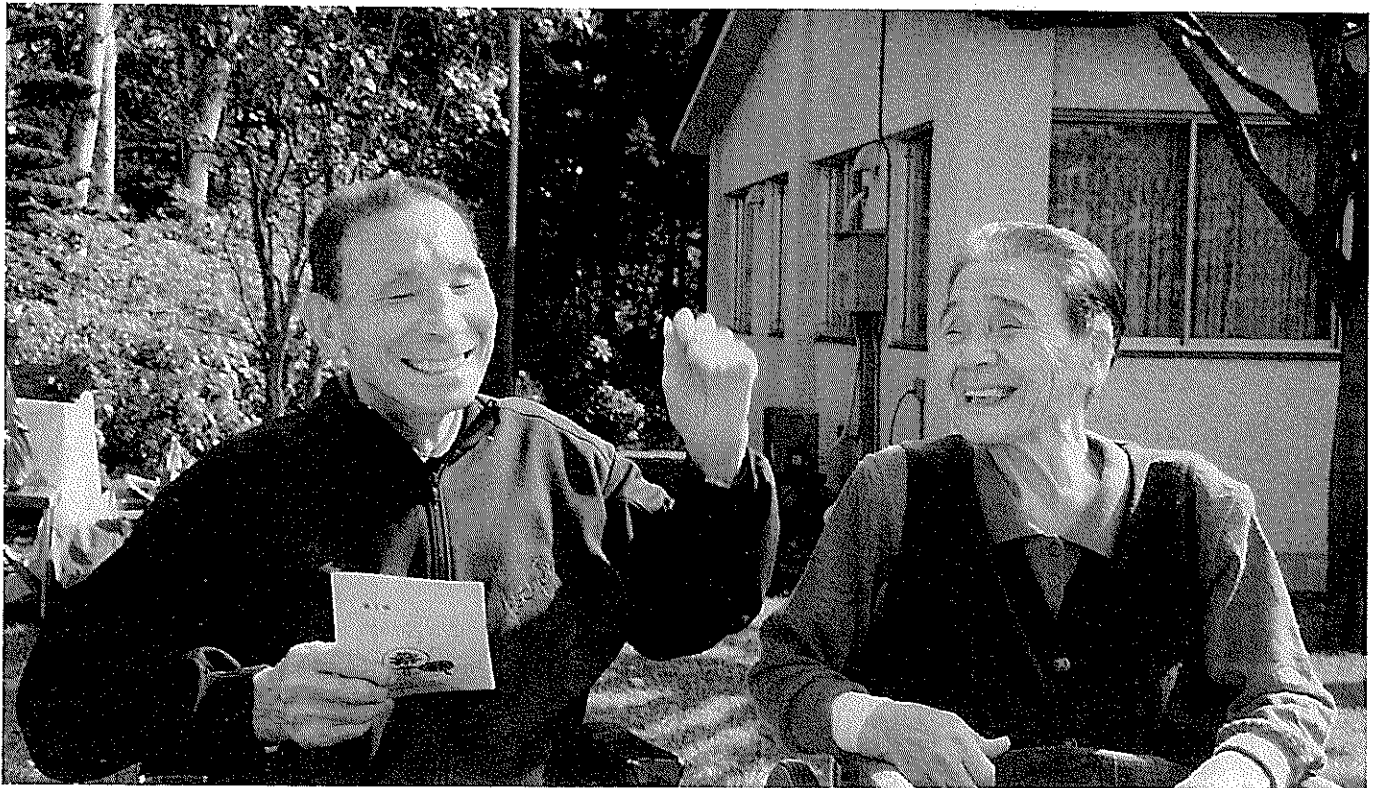


第7号

# 慈恵園だより

発行所  
芦別市旭町28番地  
特別養護老人ホーム  
芦別 慈恵園  
発行責任者  
田村 美之  
印刷所  
南ワタナベ企画いんさつ



## 暖かな日差しの中で、笑顔がこぼれます！

何を話しているのか、楽しい声までがこちらに届きそうなお二人の写真です。きっと、この日はお天気も良く、青い空と美味しいものと、楽しいおしゃべりがあり、また、心が弾む事もあったのでしょう。

よく目は口ほどに物を言うと言われるのですが、人の笑顔もまたその人の心、気持ち、そして、相手の気持ちをも左右すると思います。

慈恵園には、「和顔愛語」という運営目標があります。これは、「人にやさしい笑顔で、心は豊かに、言葉は和やかに」ということです。この事を職員一人一人が胸に刻んで、利用者の皆さんの介護をさせて頂こうと考えております。

私達職員には、それぞれの職域があります。利用者の方々にとの様にすれば、良い介護ができるのか、どの方法が良いのか等、仕事をやる目標はひとつです。平成12年4月からは、介護保険制度がいよいよスタートしますが、慈恵園においても、介護技術はもちろんです。職員ひとりひとりが、きめ細かな、暖かな介護ができる様に研鑽しています。

この表紙のお二人の様に自然に笑顔がこぼれてくる様な、皆様に安心して来て頂ける園にして行こうと思っています。



▼唄って、笑って、飲んで、手拍子 チャン チャン



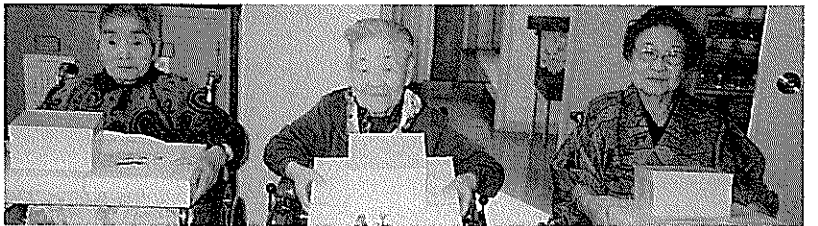
▼書初め見て、甘酒飲んで 「アンタも一杯どうぞ？」 ▲上砂川温泉一泊旅行 昨夜は楽しかったね！ ▼次は、あれにしようかな？



▲帰りは日本庭園で散歩 看護婦さんとツーショット!!



▲満100才のお誕生日の さん 明治、大正、昭和、平成の時代に生きています!!



▲米寿のお祝い 元気で、長生きして下さいね!

# 福祉について

理事長 中野重雄

福祉という用語は、広辞苑によれば、「しあわせ」と詠してある。そうであれば慈恵園のような「老人福祉施設」はお年寄のしあわせを実現する施設といわなければならない。それでは老人のしあわせとは一体なんだろうか。かつて何年か前に、ある機関が全国調査をしたところ、「暖かい思いやりのある家族に囲まれて、毎日が平穩無事であり、健康で張りのある生活」というのが典型的な老人のしあわせのイメージであるという回答であったそうである。

この言葉の中の「家族」を「職員」とおきかえてみましたが、家族であれ、職員であれ、これだけでお年寄は真に倅せになれるものだろうか。人は老若を問わず常によりよき生を願い、生き甲斐のある充実した生・時を求めつづけるものです。これがまた生きてる実感でもあるのです。私たちはこの問題一人ひとりの生甲斐・心の希求するものをどう捉え、どう充足していただけるかを真剣に考えております。それを実現することこそ真の福祉でありしあわせの成就だと思っております。

## 朝礼のひととき

施設長 田村美之

朝八時、職員の車が続々と慈恵園にウインカーを点滅させながら入ってくる。「ようし、今日も一日慈恵園は安泰だな。」玄関に入ってみるともう用務員さんは甲斐がいしく立働いているし、夜勤者は一晩の勤務のあと始末を適確にやっている。厨房からは朝食後の食器洗いの音がきこえてくる。「昨夜も園は無事だったなあ。」白衣に着替えると程なく課長さんが本日の日程等打合せに来てくれる。

さあ朝礼だ。八時三十分朝礼の行なわれる事務室に入るとき私は先ず夜勤者の顔をみる。「やはり疲れているなあ。」お早うの挨拶のあと指導員から本日の予定等をきき確める。いよいよ夜勤者の報告がある。誰々さん多動多弁のため別室に移っていた、何時に入眠。誰々さん、何時と何時に熱が何度あり、心配なので当番看護婦さんに連絡、看護婦さん来園、いろいろ手当をし平熱に戻る、お医者さんをお呼びまでにはならなかったことを喜ぶ等々。「本当にご苦労だったなあ」と思う。宿直の職員ともども火災事故防止にも気をくばり百六人のお年寄の生命を一夜守ってくれた。ある夜勤養母さんがしみじみと「夜が白んできたとき、もうすこしだ。間もなく皆がきてくれる」と思うのですと云っていた。私は涙がにじんできたものです。

朝五時に家を出る早出の調理員さんも大変な思いです。何しろ朝の定刻に百六人の朝食をつくらねばなりませんから。まず寝すごしては大変。(めざましを二つセット)ハイヤーはくるか、炊飯器は故障してないか、停電になったらどうに対応するか等々頭の中は不安と対策で一杯です。各職種の人が安堵と今日一日の決意そしてお年寄の倅せを願って集まる朝礼のひとつときであります。